

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国

子どもの水の事故防止推進事業

2 年次第 1 四半期報告書



2020 年 7 月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

## I. はじめに

事業名	子どもの水の事故防止推進事業
事業地	タイ王国バンコク都
事業期間	1年次：2019年3月 - 2020年2月 2年次：2020年3月 - 2021年4月 (全事業期間：26ヶ月)
報告対象期間	2020年3月1日 - 2020年5月31日
事業の総受益者	バンコク市内の小学校 15校 ※2020年5月末現在 (1年次は8校を対象に実施。2年次の対象校は現在調整中だが、2020年5月末現在、参加を予定している7校の合計生徒数は2,725人)
御社ご支援額	450,000米ドル (50,134,500円)

2019年3月に開始した、タイにおける子どもの水の事故防止推進事業へあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。御社のご寄付が、子どもたち、教師や保護者、コミュニティの水の事故予防のための知識の向上につながっています。心からの感謝をお伝えするとともに、活動の報告をいたします。今後も引き続きのご支援をお願いいたします。

## II. 背景と本事業の目的

### 1. 事業対象地の子どもたちを取り巻く課題

洪水、サイクロン、津波などの自然災害が多発し、また都市部においても川や湖などの水資源が豊富にあるタイでは、水の事故による死者数が特に多いとされており、子どもの水の事故のリスクの高さは、深刻な問題となっています。15歳以下の子どもの死亡原因で最も多いのが溺死であり、2000年から2018年までの間に合計2万2千人以上の15歳以下の子どもが亡くなっています<sup>1</sup>。また、障害のある子どもは、水に関する事故に巻き込まれないよう、特別な配慮が必要です。子どもたちが安心して暮らせる社会づくりのためには、彼らが水の事故を予防できるようになるための正しい知識の習得が欠かせません。



対象地：バンコク都（タイ王国）

### 2. 本事業の目的

本事業は、障害のある子どもも含めたより多くの子どもたちに、子どもの水の事故を防ぐための水泳教室の実施、行政に対する政策提言を通し、水上安全のメッセージと予防のための知識と技術を広げていくことを目的としています。

### 3. これまでの事業の進捗

セーブ・ザ・チルドレンは、株式会社ファミリーマート様のご支援を受け、2016年9月からバンコクにおいて子どもたちの水の事故予防のための事業に取り組んでまいりましたが、2019年3月からは新たに、子どもたちに対し水の事故予防の講習を行うとともに、災害時に特に影響を受けやすい、特別なニーズのある子どもの水の事故予防を推進する事業を開始しました。1年次には8校（生徒数合計3,329人）の小学校の子どもを対象に活動を実施しました。この成果と学びを生かし、2020年3月からは新たに7校（合計生徒数2,725人）を対象に活動を開始しました。

<sup>1</sup> <https://www.bangkokpost.com/news/general/1652264/child-drowning-deaths-hit-new-low>

### Ⅲ. 活動報告と主な成果

世界中に脅威が拡大した新型コロナウイルス感染症は、タイにおいても、2020年3月頃から感染者数が急増し、3月26日には非常事態宣言が発令されました。タイ政府は、感染拡大を予防し人々の安全を守るために、非常事態宣言を延長しながら、外出制限や州をまたいだ移動の制限、集会の制限など、様々な措置を講じました。その後、事態が落ち着いてきたことに伴い、移動制限などが段階的に緩和され、3月より閉まっていた学校も、7月1日より再開されました。しかし、学年スケジュールの変更、それに伴うカリキュラムの変更など、教育の現場には大きな影響が生じています。

これにより、学校を活動の場とする本事業も、実施計画の変更を余儀なくされています。3月には1年次の活動の振り返りワークショップ、4月には新規対象校の教師を対象にした指導者研修を予定していましたが、学校再開時期が定まらなかったため、これらの活動については中止せざるを得ませんでした。

また、2年次の対象校選定にも影響がありました。事業チームは2019年11月より、バンコク都庁教育局、私立教育委員会、バンコク都庁、および1年次に事業に参加した学校からの助言を受けて、2年次の新規対象校8校を選定し、2020年1月からは各学校を訪問し、学校における活動のスケジュールについて話し合いを重ねていました。しかし、学校の閉鎖、そして再開後も学校における通常カリキュラムの変更が余儀なくされることから、事業への参加の意思を表明していた学校のうち、Thanpanya 小学校については、残念ながら参加を取りやめることになりました。また、バンコク都庁下の公立学校については、バンコク都庁の意向が明確になるまでは参加についての明確な回答が難しい状態です。

学校側の懸念は、変更を余儀なくされている学校の通常カリキュラムと、本事業の活動を、スケジュール的に両立できるかという点と、また、感染拡大の懸念がある中、生徒を集めて行う活動の安全性を確保できるか、という点です。再び感染が拡大し、学校が閉鎖になる事態も起こり得ると考える学校は少なくなく、4月の時点で学校が事業への参加決定するのは困難だったため、事業チームと各学校の学校長は、6月に再度協議し、事業への参加可否について、また、参加を可能にするためにどのように活動を調整できるかについて話し合うことになりました。



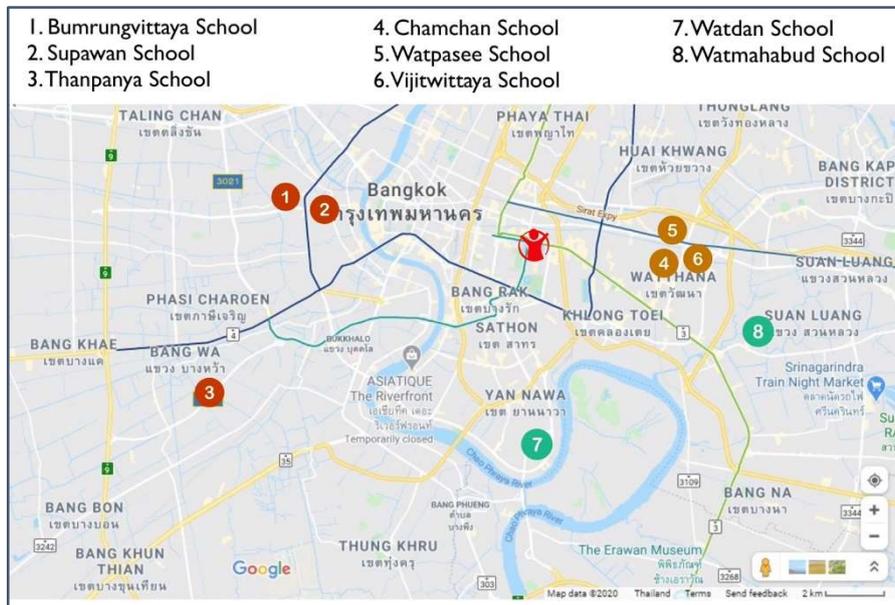
Supawan 小学校と Bumrungvittaya 小学校との打ち合わせ（2020年2月、バンコク都）



Chamchan 小学校長との打ち合わせ（2020年2月、バンコク都）

表 1：事業対象予校（2 年次）（2020 年 5 月末現在）

学校名	地域	所属	生徒数		
			女子	男子	合計
Bumrungvittaya	Bangkoknoi	私立教育局	125	120	245
Supawan	Bangkoknoi	私立教育局	120	170	290
Thanpanya	Phasi Charoen	私立教育局	参加辞退		
Chamchan	Wattana	バンコク都	183	157	340
Watpasee	Wattana	バンコク都	310	207	517
Vijitwittaya	Wattana	バンコク都	284	233	517
Watdan	Yannawa	タイ基礎教育局	158	138	296
Watmahabud	Suanluang	タイ基礎教育局	240	280	520
合計			1,420	1,305	2,725



また、新学年度のスケジュールが変更となり、今学年度の終了が 2021 年 3 月から 4 月へと延期されたことから、事業チームは、子どもたちも含む裨益者や関係者に負担を与えずに事業の成果を可能な限り達成するために、事業実施期間を 2 ヶ月間延長することにしました。

## **<期待される効果 1> 子どもとその家族、地域住民が、水の事故予防のための知識と技術を習得する**

### 水難に備えた泳法のワークショップ（指導者研修）

セーブ・ザ・チルドレンは、事業終了後も水の事故予防の活動が各学校で継続されるためには、教師が子どもたちに教えることができるようになるための能力強化が重要であると考えています。当初は、4月上旬に4日間の教師に対する指導者研修を予定していましたが、感染拡大予防措置が取られている状況を考慮し、この研修はいったん中止とし、8月以降にオンラインで実施することとなりました。

指導者研修には、2つの講習が含まれます。1つは、水の事故のリスクが高い場所の分析やリスク回避方法など、子どもたちの水の事故予防に必要な知識を向上させるための講習です。2つ目は、泳法訓練や救命訓練など、水泳技術や溺れそうになっている人を救助するための技術を向上させるための実践に関する講習で、実際にプールを使用して行うものです。この2つの講習を受講した教師たちが中心となり、それぞれの学校において、生徒たちへの講習を行うことが期待されます。1年次には、指導者研修を受けた教師たちが、各学校において子どもたちに水の事故予防のための講習を実施しました。しかし、今年度はオンライン上での指導者研修となるため、泳法訓練や救命訓練など、実践に関する講習については実施することができません。そのため、実際に子どもたちに水の事故予防のための泳法訓練と救命訓練を実施する際には、タイ・ライフセービング協会（TLSS）のインストラクターの協力を得ることを予定しています。また、オンライン研修を実施する際には、1年次に参加した学校の教師たちが、各学校における学習計画をどのように作成したのかについて助言を行うなど、2年次に新たに参加する学校の教師をサポートする予定です。

### 生徒たちへの6週間講習および3日間キャンプの実施

#### Photo-Voice、シード・ファンドを通じた活動支援など、各学校における啓発活動

事業チームは、6月から7月にかけて、事業参加校と協議を行い、実施計画について話し合う予定です。

事業チームは現在、各学校との調整を継続する一方で、学校再開後に速やかに活動を開始できるよう、講習などに使用する資機材の準備を進め、また、“Alert Little Tun”のアニメーションを使用した水の事故予防の啓発用リーフレット、ポスターやDVD、塗り絵本などの印刷も進めています。これらの啓発教材は、7月から8月にかけて、対象の学校に配布される予定です。また、学校が再開されるにあたり、子どもたちが安心して学校に戻ることができるよう、バケツ、掃除用ブラシ、洗剤、石鹼、消毒剤などの衛生用品を各学校に提供しました。さらに、衛生管理に関する啓発ポスターを掲示し、石鹼を使用したこまめな手洗いや、教室や洗面所など清潔に保つことを推奨しています。

## **<期待される効果 2> 地方及び国レベルで、インクルーシブな水の事故予防教育が普及する**

### ワーキング・グループの設立

2020年1月に、教育省特別教育局、社会開発・人間の安全保障省の障害者エンパワーメント局など14の政府機関や非政府機関が参加して実施したワーキング・グループ会議では、このワーキング・グループの枠組みを、障害のある子どもに関係する他の機関にも拡大することが合意されました。事業チームは、病院や自閉スペクトラム症の子どもの保護者の会、タイ自閉スペクトラム症協会などからなる自閉スペクトラム症ワーキング・グループに、事業への参加と協力を求めていく予定です。

### バンコク都庁等との協議

事業チームは、本事業で開発した水の事故予防のカリキュラムがより広範に使用されるよう、教育省基礎教育局に対

してカリキュラムの説明を行うための会議を予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、この活動についても実施が延期されています。

### 障害のある子どもにやさしい水上安全ガイドライン作成

2020年1月に実施したワーキング・グループ会議では、特別教育教師や保護者向けの、自閉スペクトラム症、学習障害などの障害のある子どもにやさしい教授ガイドラインの作成について合意されました。現在、このガイドラインの内容について協議を継続しつつ、作成するコンサルタントとの契約を進めています。

### 振り返りワークショップ

1年次の活動が全て終了した2020年3月下旬には、1年次の対象校の教師たちの振り返りワークショップを予定していました。このワークショップは、教師たちから、いかに事業を効果的に実施できるかについてのフィードバックを受け、また、それぞれの学校においてどのように水の事故予防のための取り組みを実施しているかについて、共有することを目的としていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。2年次は、振り返りワークショップを2学期後半に実施する予定ですが、通常の活動においても、引き続き、生徒や教師から、活動改善のためのフィードバックとコメントを収集していきます。

### ソーシャルメディアを通じたキャンペーンの実施

事業チームは、学校が長期休暇となる3月から5月の間に、タイの国営放送であるThai PBSの番組に出演し、子どもの水の事故予防の重要性について話す予定でした。Thai PBSはまた、同期間中、セーブ・ザ・チルドレンが作成した子どもの水の事故予防のための啓発ビデオを放映する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、Thai PBSの優先度が感染症の予防のための注意喚起へと変わったため、中止となっています。

### 1年次終了時のエンドライン調査について

事業1年次終了時の2020年2月には、事業対象となった小学校4年から6年生の244人の生徒（129人の女子、115人の男子）と21人の教師（11人の女性、10人の男性）を対象に聞き取りを行い、事業の成果を測りました。この結果、本事業が子どもの水の事故予防を効果的に促進したことがわかりました。例えば、子どもたちの水の事故予防に関する知識については、以下のような変化が見られました：

表2：生徒たちの水の事故予防に関する知識の変化

	事業開始時 (2019年3月)	事業終了時 (2020年2月)
「水深がある場合のみに危険があるわけではない」と答えた生徒	28.0%	49.2%
安全な救助の手順（“Shout-Throw-Hand <sup>2</sup> ”を含む）について知っている生徒	88.8%	93.8%
「水岸から遠い場所で溺れそうになった時に、水岸に向かって早く移動することが大切ではない」と知っている生徒	21.5%	36.1%

<sup>2</sup> 「叫ぶ→投げる→手渡す」は、溺れそうになっている人を見つけた時は、水の中に入って救助を試みるのではなく、まず「大声で助けを呼び」、「ペットボトルなど水に浮くものを投げ」、そして「ロープや木の枝など捕まるものを渡す」ことで救助する、という安全な救助方法を示す重要なメッセージとして教えています。

また、教師や学校長への聞き取りを通して、今後に向けた改善点として以下の点が挙げられました：

- ・ 各学校で継続的に水の事故予防の活動が行われるようになるために、2 年次には、学校の自発的な活動をより促すことを検討する
- ・ 教師が生徒たちに水の事故予防について教えることができるようになるよう、TLSS のインストラクターの支援を受けつつも、教師たちの「実践による学び」を促していく

事業チームは、事業終了後も各学校で継続的に水の事故予防の活動が効果的に行われていくよう、今後、上記改善点について検討していきます。

#### IV. 今後について

---

上述の通り、タイにおける新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、2 年次の事業開始の段階から、当初予定していた活動計画の見直しが必要となりました。事業への参加を予定していた学校も、通常のカリキュラムを実施するために様々な調整をせざるを得ない状況となっています。また、学年度のスケジュールの変更に加え、密集状態を避けるための教室内の生徒数の制限や、校内でのマスクの着用、さらには対面の活動を最小限に抑えることなど、関係省庁から学校に対し、多くの指示が出されています。生徒やその家族も新しい生活スタイルに適応することが求められています。

今後もすべての裨益者、特に子どもたちの安全を確保しながら、期待される効果を可能な限り達成できるよう、調整を継続していくとともに、適宜、活動の進捗をお伝えしてまいります。

参考資料 1 : 活動スケジュール (2 年次)

活動	2020												2021			
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4		
学校休暇期																
事業レビュー (内部)	X			X												
活動 1																
学校選定	X															
教師に対する指導者研修																
教師に対するリフレッシャー講習																
生徒たちに対する、水の事故予防のための 6 週間講習の実施																
生徒たちに対する、水の事故予防のための 3 日間キャンプの実施																
PhotoVoice の実施																
各学校における啓発活動の支援																
事業成果披露イベント																
"Alert Little Tun"の CD や啓発教材 (塗り絵本) の印刷				X												
水の事故予防学習のための資料購入				X												
活動 2																
教育省との四半期ミーティング	X															
インクルーシブ教育ワーキング・グループの会 議実施																
インクルーシブな水の事故予防ガイドライン の作成	X	X	X	X												
水の事故予防カリキュラムのミーティング																
振り返りワークショップ、サクセス・ストーリー 集の作成および印刷																
水の事故予防に関する一般向けの啓発活 動	X	X	X	X												